



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	自閉症スペクトラム障害児の社会的相互交渉に関する研究動向：心的状態の理解との関連から (fulltext)
Author(s)	二川,敬子; 高山,佳子
Citation	学校教育学研究論集(32): 35-42
Issue Date	2015-10-31
URL	http://hdl.handle.net/2309/139890
Publisher	東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科
Rights	

自閉症スペクトラム障害児の 社会的相互交渉に関する研究動向

—— 心的状態の理解との関連から ——

二川 敬子*・高山 佳子**

1. はじめに

私たちが人と関わる際に相手が何を思っているのか、何を意図しているのかを考えて行動することは、日常生活の中で当たり前のこととして行われている。「人間が相互のやりとりをすすめるには最も重要な意味をもつのは、自分の考えと他者の考えを思い浮かべる能力である」(Frith, 1989)、「人間の相互作用は、本質的に心の、心的状態の相互作用である」(Astington, 1993) という記述が示すように、人間の社会的相互交渉には、他者及び自己の心的状態の理解が必要であるということはほぼ間違いがないだろう。

自閉症スペクトラム障害 (autism spectrum disorder: ASD) 児の社会的相互交渉に関しては、自閉性障害児とその友だちとの自然発生的な相互作用が健常児や行動障害の子ども達に比べて少ないこと (Attwood, Frith, & Hermelin, 1988) や自閉性障害児が示した相手への働きかけにより相互交渉に発展した割合は行動障害児や健常児に比べて低く、相手から何の応答も得られないことが多いこと (Lord, & Magill, 1994) が行動観察による研究で示されてきた。金・西永・細川 (2004) の研究においても仲間への働きかけの生起総数の少なさが指摘されており、こうした研究から、ASD児は仲間関係を作り維持することに困難がある (Solish, Minnes, & Kupferschmidt, 2003) 等、対人関係が上手くいかないことが指摘されている。自閉症は、社会的相互交渉に障害があり、中でも「人との分かち合いと協力」「謝罪する」「約束をして守る」

「物の貸し借りをする」「衝動のコントロール」「身近な人と身近でない人に対する適切な接し方」等、対人関係領域の項目で精神年齢から期待される水準の働きよりもおよそ4歳分遅れていたことが示されている (Volkmar, Sparrow, Goudereau, Cicchetti, Paul, & Cohen, 1987)。

本稿は心的状態の理解という点からASD児の相互交渉について、自閉症の心の理論研究が行われ始めた1980年代からの先行研究を概観し課題について考察することにより、彼らへの支援の方向性を探ることを目的とする。先行研究では文献によって「相互作用」と「相互交渉」という2つの語が使われているが、2つの語に明確な定義の違いはみられない。どちらも英訳は「interaction」という語になっており、内容としてはほぼ同義と捉えられる。本稿では、人と人との係わりにおいて相手とのやりとりや関係作りという視点が重要であるという考えから「相互交渉」という語を使用することとする。

2. 社会的相互交渉と他者の心的状態の理解

他者の心的状態、信念・欲求・意図等を理解できるかどうかという問題は、従来「心の理論」(Premack & Woodruff, 1978) として研究が続けられている。特に自閉症に対しては、心の理論の指標といわれる「誤信念課題」の通過率が健常児や他の障害児と比較して明らかに低く、心の理論の獲得に困難が見られること (Baron-Cohen, Leslie & Frith, 1985; Perner, Frith, Leslie & Leekam,

* ふたがわ けいこ 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科

** たかやま よしこ 横浜国立大学教育人間科学部

キーワード：社会的相互交渉／自閉症スペクトラム障害児／心的状態の理解

1989) が示された。さらにPerner and Wimmer (1985) によって考案された「二次の誤信念課題」を自閉症児は通過できず「他者の『信念』についてのもう一人の別の他者の誤った信念」について理解できないこと (Baron-Cohen, 1989) や多くの自閉症児は心の理論の発達に限界があることが示唆され (Holroyd & Baron-Cohen, 1993)、心の理論の獲得の遅れと自閉症児・者の対人関係上の問題との関係が論じられてきた。その後、一部の知的に高い自閉症児は二次の誤信念課題にも通過するということが明らかになった (Bowler, 1992; Ozonoff, Rogers, & Pennington, 1991)。しかし二次の誤信念課題を通過し心の理論が獲得できていると思われる自閉症児であっても、日常生活では他者の心を読み違えた奇妙な行動をとる、他者の心を読み取って適切に人と関われない (Bowler, 1992; Frith, Happé & Siddons, 1994) 等の対人関係上の問題が明らかにされている。

心の理論と関連したASD児の社会的相互交渉、特に日常生活における相互交渉についての実証的な研究はあまり多くない。自閉性障害児の「アニメーション版『心の理論課題』」(藤野, 2002) の遂行と小集団における実際のやりとり場面で見られた他者意図の推測との関連を検討した研究 (滝吉・田中, 2008)、自閉性障害児を対象に「アニメーション版『心の理論課題』」(藤野, 2002) におけるパフォーマンスと実際の対人関係場面におけるエピソードの比較検討を行い、対象児の他者の心的状態に関する理解について検討した研究 (滝吉・李・斎藤・横田・田中, 2010)、高機能自閉症児の社会的相互交渉について「アニメーション版『心の理論課題』 ver.2」(藤野, 2005) の結果と日常の行動を対人交渉方略の視点から検討した研究 (二川・高山, 2013) がある。

これらの研究において共通しているのは、各研究の対象児が知的発達・言語発達とも標準域にあり、一次・二次の誤信念課題等を含む「アニメーション版『心の理論課題』」(藤野, 2002)・「アニメーション版『心の理論課題』 ver.2」(藤野, 2005) を通過している点と彼らの社会的相互交渉に問題が見られるという点である。誤信念課題の通過と言語能力の高さには、関連があることが複数の先行研究において指摘されている (Ozonoff, Rogers & Pennington, 1991; Happé, 1995; Sparrevohn & Howie,

1995; Astington & Jenkins, 1999)。別府・野村 (2005) は健常児の心の理論の発達に関して、言語的に判断理由を述べることができなくても誤信念課題を通過し日常行動レベルでは心の理論を踏まえた行動がとれる段階から、課題に通過しかつ言語的な理由付けが可能な段階へ発達するのに対し、高機能自閉症児には判断理由を述べるができなくても誤信念課題には通過する者が一人もみられなかったことを示した。この研究の中で別府・野村 (2005) は、高機能自閉症児は言語能力による補償によって誤信念課題を通過し、彼らが獲得する心の理論のプロセスと内容については健常児と質的に異なると考察している。滝吉・田中 (2008)；滝吉・李・斎藤・横田・田中 (2010)；二川・高山 (2013) の研究における対象児についても言語能力によって「心の理論課題」を通過できた可能性が考えられる。また、彼らは「実際のやりとり場面の中で自分の意図を整理し言葉を組み立てることの困難性」(滝吉・田中, 2008)、「実際の対人葛藤場面では情報処理ステップに基づいて適切な方略を考える余裕がないこと」(二川・高山, 2013) 等が原因で相手の心的状態を考慮した相互交渉が難しいことが指摘されている。心の理論課題を通過している彼らの相互交渉に問題が見られるという点はBowler (1992) やFrithら (1994) の先行研究の結果を支持している。こうした結果に関して、内藤 (2013) は「(日常生活で求められるのは) 非言語的な状況や相手の視線や表情等一瞬ごとに変化する雑多な手がかりの中から、有効な情報を瞬時に見分けてそれを用いて相手の心情を適切に推し量る能力である」と述べ、それは自発的にはたらく「速い心の理論」(Apperly & Butterfill, 2009)、「直観的心理化能力」(Frith, 1989; 2004) ともいわれている。高機能自閉症児にはそうした「柔軟で直観的な心の理解」(内藤, 2013) を獲得することが難しく、高機能自閉症児が獲得する心の理論では社会的相互交渉に十分には対応できないことが推測される。

滝吉・田中 (2008) は対象児の社会的相互交渉における他者の心的状態の理解を「他者の意図理解」という視点から検討している。他者の意図理解についてはコミュニケーションおよび社会的問題解決能力に関する研究からも重要性が示されている。Frith (1989) によれば、私たちが日常で交わすコミュニケーションは、言葉の表面

的な意味だけを伝えることは殆どなく、言葉に込めた思いや気持ちをお互いに伝えようとする「意図的コミュニケーション (intentional communication)」であり、話し手と聞き手が相互に意図を理解し合うことで成り立っているといえる。それに対し自閉症児・者は言葉通りの「むき出しのメッセージ (bare messages)」を伝えたり、言葉通りの理解をしたりする傾向が強い。標準的な二次の誤信念課題を通過した自閉症者群も、「嘘」「冗談」「二重のだまし」「説得」「誤解」等を扱った高次のテストには正答できない (Happé, 1994a) のは、言葉の裏にある話し手の意図が読み取れないためだと考えられる。二川・高山 (2013) においても、友達の冗談に対して本気で怒り出す対象児の行動が見られ、対象児が社会的交渉において相手の意図を理解できていないことがうかがえる。「社会的問題解決 (Social problem solving)」の能力とは他者との効果的な相互交渉を行うために必要な社会—認知的能力のことをいう (東・野辺地, 1992)。子安・鈴木 (2002) は4歳から6歳の健常幼児の社会的問題解決能力と「心の理論」の発達を検討した研究の中で、対人葛藤の解決場面における出来事が誰かの故意によって引き起こされたものか、偶然によるものかという「相手の意図」の理解が葛藤解決方略の選択や決定に重要な役割を果たすと述べている。Dodge (1986) は子どもの仲間関係と認知および社会的問題解決方略の関係を検討し、他者の意図理解と解決方略に関する研究を行っている。葛藤場面における他者の意図理解に関する先行研究からは「被害者の攻撃・報復的方略は加害者の意図に多大に影響される」こと (Dodge, 1980)、「攻撃的な子どもは偶発的な対人葛藤場面においても攻撃的に応答することが多く、相手に悪意があったと意図を歪めて理解する傾向がある」こと (Keane, & Parrish, 1992; Quiggle, Garber, Panak, & Dodge, 1992)、「攻撃児は相手の意図が曖昧な時に敵意の意図帰属を行いやすい」(Dodge, & Somberg, 1987) こと等が明らかにされており、適切な解決方略を選択・決定するためには他者の意図を適切に理解することが非常に重要であると考えられる。

滝吉・田中 (2008) の研究で対象児となった自閉性障害児は、「他者への志向性を高める」ことをねらいとした約5年半に渡るグループ活動を通して、他者へ注意が向かない段階から他者の外見からその意図を推測する段

階へと発達した。しかし、内的特性に基づいた他者の意図理解や自発的な他者の意図理解についてはまだ難しい段階にある。Happé (1994b) は相手の意図といった心的状態を理解するにも心理化の能力が必要であると述べている。富田 (1997) によると心理化とは心の理論と同義であるため、心の理論の獲得に遅れがみられるASD児は他者の意図理解も遅れがみられる可能性が推察される。言葉の意味学習に関する研究からは、自閉症児は話し手の意図を示す微妙な手掛かりを使用しないということが示されており (Baron-Cohen, Baldwin, & Crowson, 1997)、信念と同様に他者の意図もASD児には理解しにくいものであることが推察される。中嶋 (2008) は言語発達遅滞検査を用いて自閉症幼児の他者の意図理解の発達を検討し、自閉症児の他者の意図理解が健常児とは異なるプロセスをたどる可能性を示唆している。他者の意図理解は社会的相互交渉を行うために非常に重要であり、ASD児の社会的相互交渉が難しいことの要因の一つと考えられる。ASD児の他者意図理解が特異的である可能性も含めて、彼らの実際の行動と結びつけて今後さらに解明していく必要があるといえる。

3. 社会的相互交渉と自己の心的状態の理解

乾 (2013) は適切な社会的相互交渉に必要なものとして、自己を内省する能力と自己が行った行為や発話が相手に対してどのように影響を及ぼすかを知覚する能力を挙げ、社会的相互交渉には自己の知覚が重要であると述べている。一方、「自己の心を理解することは他者の心を理解することと密接に関連しており、心の理論に障害をもつ自閉症児は自己の心の理解にも障害をもつ」(Happé, 2003) と捉えられており、自閉症児の社会的相互交渉の難しさの原因のひとつとして自己の心的状態の理解が困難であることが推測される。

ASD児の社会的相互交渉の実際と自己の心的状態の理解に関する研究は殆ど見られないが、鈴木・平野・北・郷右近・野口・細川 (2013) は自己の言動という視点から高機能自閉症児1名に対して、「アニメーション版『心の理論課題』ver.2」(藤野, 2005) の結果と実際の相互交渉の様相、特に対象児自身の言動と他者の言動の因果関係の理解から社会的相互交渉の困難の要因を検

討している。その結果、対象児は心の理論課題に通過し、他者の言動が他者または自身の現在の状態を招く原因となった場面で過去の言動と現在の関係を適切に言及することができたが、対象児自身の過去の言動が他者または自身の現在の状態を招く原因となった場面では、自身の過去の言動と現在の状態の関係について不適切な言及を行ったことが明らかになった。

鈴木ら (2013) は自己の過去の言動が現在の状態を招いている場合に対象児がそれらの関係を適切に言及できないことの原因として、健常児と比較して自己の経験に対する記憶が希薄であるという高機能自閉症児におけるエピソード記憶の特異性 (Millward, Powell, Messer, & Jordan, 2000) や内省の困難 (Happé, 2003) を挙げている。彼らの記憶に関しては、健常者にみられるような記憶の「自己準拠性効果」が高機能自閉症児にはみられず、自己にかかわる情報とそれ以外の情報を区別しないで記憶していること (十三・神尾, 2001)、高機能自閉症者は、自己経験によるエピソード記憶が十分に行えていないこと (Bowler, Gardner, & Grice, 2000) 等が明らかにされている。内省報告に関する研究では、健常児が多様な形式で内省報告ができるのに対して高機能自閉症児は視覚的イメージのみの内省報告を行い、かつ他者の内省報告に対して興味を示さない (Hurlbert, Happé & Frith, 1994)、自分と直接関係のない他者の心に関心が薄い (Frith, & Vignemont, 2005) ということが示唆されており、高機能自閉症児が自分の言動について想起したり現在の状況と結びつけて内省したりすることの難しさがうかがえる。

自己に関する理解と言う点について健常児は、他者が自分をどのように捉えているかを考慮して自己理解を進めるが、知的障害のある自閉症児に関しては対人関係や社会的集团的枠組みよりも物との関係で自己を捉える傾向があり「他者との関係での自己理解」に障害がある (Lee, & Hobson, 1998) ことが知られている。野村・別府 (2005) は高機能自閉症児における自己理解について、同年齢の健常児と比較して他者との関係で自己理解を行う者が少なく、かつ他者との関係で自己理解を行う者が小学生より中学生で増加するという発達の変化がみられることを示した。その後、田辺・津田・橋本 (2010) の研究からも高機能広汎性発達障害群は自己意識の発達

中で定型群よりも社会との関係性の中で自己を捉えることが少ないこと、そして他者の視点から見た自己像を考慮して自己理解を進められないことが示唆されている。これらの研究結果より、鈴木ら (2013) の研究において対象児が他者の言動と他者の現在との因果関係よりも自己の言動が関連する状況の因果関係の方に不適切な言及が多く見られたのは、自己の言動が他者または自分自身にとってどのように作用したのかという「自己と他者との関係において事象を位置づける」という点に難しさがあるためではないかと考えられる。

ASD児の対人関係上の問題は、社会的相互交渉と彼らの自己の心的状態の理解に関する研究が多くないことから、他者の心的状況が理解できないという点に検討の中心が置かれてきたと思われる。しかし、社会的相互交渉 (social interaction) が「ある個人が他者に働きかけ影響を与えると同時に他者もその個人に働きかけ影響を与える、このような関係が成立している場合」(小川, 1987) と定義されるように自己と他者が相互に影響し合うものであり、私たちのコミュニケーションが、聞き手が話し手の意図を理解すると同時に話し手は自身の意図が望んだように理解されていると思えるようなものである (Frith, 1989) ならば、当然他者の心的状態だけでなく、自分の心的状態の理解が不可欠となってくる。社会的相互交渉を理解し支援をするためには、他者の心的状態の理解と自己の心的状態の理解を共に検討することが重要であろう。

4. 自閉症スペクトラム障害児の社会的相互交渉研究における自他の心的状況の理解と調整

これまでASD児の社会的相互交渉に関連する他者の心的状態の理解と自己の心的状態の理解とを分けて論じてきたが、実際の相互交渉では他者・自己両方の心的状態の理解が必要であり、私たちはその両方を調整しながら対人関係を築いている。

対人交渉方略 (Interpersonal Negotiation Strategy: INS) の研究は葛藤場面においてどのような方略を使用するかという視点から社会的相互交渉を捉えた研究である。Yeates, & Selman (1989) によると対人交渉方略は人が葛藤場面において問題解決を行うために生み出す方策の

ことであり、Yeatesら（1989）は対人交渉方略を生み出す社会的情報処理ステップとして、①問題の定義（社会的問題の性質を適切に定義する能力）②方法の産出（問題を解決するにはどのような方略があるのかを考える力）③方法の選択と実行（複数の方略の中でその場面に一番ふさわしい方略を選択し、実行する力）④結果の評価（そうした方略によって生じた結果を評価する力）という4つのステップを設定し、年齢が上昇するにつれて問題を解決する方略のレベルが上がることを示唆している。長峰・加藤・辻井（2011）は心の理論と対人交渉方略はどちらも社会性の指標であり、両者は「他者の心的状況を推測する能力という点で共通しているが、対人交渉方略にはそうした能力を使って他者との間で交渉（自他の視点の調整）ができるかどうかという側面が加わっている」と述べている。対人交渉方略は方略を選択し行動の結果を評価するという点で、心の理論よりもさらに実際の行動に近い社会性の指標といえるだろう。

発達障害者を対象にした対人交渉方略研究（小島, 2005）からは、彼らの対人交渉方略は「自分の意見を主張する方略（自己重視型方略）」と「相手の意見を受け入れる方略（他者重視型方略）」がほぼ同じ割合を占め、「じゃんけん」と「相互・互恵的方略（相手の意見と自分の意見を踏まえ、話し合いによって解決しようとする方略）」よりも有意に多いことが示唆されている。また高機能自閉症児・者においては、状況が理解されやすい場面では、健常児・者とほぼ同レベルの方略を選択することができるが、それぞれの方略の質を見ると健常児・者の方が自分と相手との視点を調整するような方略を選択していること、状況が理解されにくい場面では、高機能自閉症児・者は健常児・者よりも未発達な方略を選択し、思春期以降も互恵的な方略をとることができないこと（長峰・加藤・辻井, 2011）が明らかになっており、高機能自閉症児が自他の視点を調整した方略を選択しにくいことが示されている。しかし、対人交渉方略の研究は一般的に、例話における葛藤場面で対象児がどのような方略を用いるかを問題にしており、実際に日常生活で対象児が用いる方略が例話で用いる方略と一致するか否かは不明である。二川・高山（2012）は特別支援学級に在籍する児童の葛藤場面の観察を通して、彼らの日常生活における対人交渉方略は「自己重視型方略」が7割と

最も多く「他者重視型方略」が1割強であったこと、自己重視型方略のうち4割が「黙って取る」等の行動によるものであったことを明らかにした。前述した二川・高山（2013）の研究では、高機能自閉症児が例話においては「相互・互恵的方略」を挙げられる反面、実際の葛藤場面では「相互・互恵的方略」が少なく「自己重視型方略」が多く見られるという、例話と実際に用いる方略が一致しないという結果が得られた。この結果については、実際の葛藤場面では情報処理ステップに基づいて適切な方略を考える時間がないことに加え、対象児にとっての交渉内容の重大性が影響しているという考察がなされている。対人交渉方略の研究から示されたASD児の「例話では適切な方略を挙げることができるが、実際にはそうした方略が使えない」という様相は、日常生活において「自発的に心の理論が使えない」（千住, 2013）という誤信念課題の通過と現実生活の姿の乖離状態と類似している。日常の生活では、対人葛藤の相手や内容、周囲の状況、葛藤の経緯等の非常に具体的な要因によって対象児が決定する方略が変わってくる。相手の感情や意図の理解に関しても、相手と自分の関係や状況等によって理解の程度や自他の調整の仕方が異なり、相互交渉の様子も変化すると考えられる。他者や自己の心的状態の理解・調整と日常生活の行動としての社会的相互交渉を関連させていくには具体的な要因を丁寧に検討していく必要があり、そうした要因を踏まえて相互交渉の支援をしていくことが課題である。

ASD児の社会的相互交渉の支援は、標的行動の生起（井澤, 2003）やコミュニケーションスキル支援による相互交渉の増加（高橋, 2004; 2005）等の研究があり行動やスキルの獲得が認められる。しかし、心の理論の獲得を目的にした研究（Ozonoff, & Miller, 1995; Swettenham, 1996; Chin, & Bernard, 2000）においては、効果は限られており指導されたスキルを他の領域で活用することが困難であることが示されている。ASD児の社会的相互交渉の支援に関しては自他の心的状態の理解と調整に加え、葛藤場面の例話や誤信念課題では考慮されない個々の事例の具体的な関連要因を視野に入れた支援プログラムが有効なのではないかと考える。

5. 今後の課題

(1) 心的状態の理解と実際の行動を結び付ける実証的研究の必要性

ASD児を対象にした他者および自己の心的状態の理解に関する研究は誤信念課題の通過や例話における葛藤場面の解決方略を検討する実験的な研究が中心であった。実際の相互交渉に関する研究は行動観察やソーシャルスキル支援等が多く、ASD児の心的状態の理解と日常生活における社会的相互交渉をつなぐ実証的な研究は少ない。子安・服部・郷式(2000)は他者の心の理解過程について、誤信念課題通過前と通過後で健常幼児の集団行動にどのような変化がみられたかを縦断的に観察し事例分析を行っている。今後の心の理論研究に対してAstington(2001)は現実世界や情動との関連等を含めて検討することの必要性を指摘しているが、子安ら(2000)の研究のように、ASD児の心的状態の理解という認知的な側面と実際の行動との関連を検討することにより、彼らの社会的相互交渉の課題をより明確にできると思われる。

日常生活における社会的相互交渉は相手や交渉の内容、周囲の状況等具体的な要因によって変化する。ASD児の相互交渉を行動観察した伊藤・西村(1999)、西村・狗巻(2010)により、特に交渉相手の関わり方の重要性が指摘されている。遠藤(1997)は私たちの日常の対人関係には、自他理解あるいは心に関する「一般法則(原則)」としての「心の理論」と個人が自ら生きる世界・文脈に応じて特化させた「個別法則(特殊細則)」としての「内的作業モデル」の2つが関連していると述べている。私たちは相互補完的にこの2つの理論を適宜組み合わせながら、その時々々の自他の心情や行動に関する予測や解釈の精度を高めており、2種類の「理論」に支えられてその時々々の自他理解を行っているという。高機能自閉症児が日常生活の中で相手や状況によって交渉方略を変えている(二川・高山, 2013)のは、適切に使用しているか否かは別として、彼らが個別法則の理論を使用しているからだと考えられる。「一般法則(原則)」としての「心の理論」研究と合わせて「個別法則」という視点からもASD児の日常の相互交渉を丁寧に分析することにより、彼らの社会的相互交渉の実態がより詳しく把握できるのではないかと考える。

(2) 自閉症スペクトラム障害児の社会的相互交渉に対する支援研究の必要性

ASD児の社会的相互交渉をよりスムーズなものにするためには、彼らが受容される雰囲気(滝吉・田中, 2010)を作る等の環境整備が必要であることが挙げられている。ASD児自身の社会的問題解決や心的状態の理解に関しては行動スキルの訓練のみならず認知的訓練等の認知面への支援の重要性(中澤, 2000)や心的状態の理解に関する学習の可能性(Frith, 1989)が示唆されている。また、近年高機能のASD児へのソーシャルスキルトレーニングには社会的認知という視点が加わり、岡田・後藤・上野(2005)をはじめとする多くの研究で、社会的適応状態が改善される等の効果が報告されている(藤野, 2013)。

滝吉・田中(2009)は他者との相互交渉を踏まえた自己理解という視点から高機能自閉症児の自己理解の変容について支援を行っている。その結果、対象者は他者との相互交渉を意図的に積み重ねることを通して他者の視点を自己の中に取り入れ、他者と自己の両方の視点に気づくことができるようになった。他者および自己の視点の相違に気づき、理解できるようになることは、対象児の社会的相互交渉の改善に繋がると考えられる。このようにASD児の相互交渉の支援においては、行動面に対する支援に加え、他者および自己の心的状況を理解し調整することをねらいとした認知面に対する支援を行うことが有効であり、具体的な支援プログラムを検討していくことがASD児の社会的相互交渉における今後の課題と考える。

文献

- Apperly, I. A., & Butterfill, S. A. (2009) Do humans have two systems to track belief-like states? *Psychological Review*, 116(4), 953-970.
- Astington, J. W. (1993) *The child's discovery of mind*. Harvard university press. 松村暢隆訳(1995) *子供はどのように心を発見するか<心の理論>の発達心理学*. 新曜社.
- Astington, J. W. (2001) *The Future of Theory-of-Mind Research: Understanding Motivational States, the Role of Language*,

- and Real-World Consequences. *Child Development*, 72(3), 685-687.
- Astington, J. W., & Jenkins, J. M. (1999) A longitudinal study of the relation between language and theory-of-mind development. *Developmental Psychology*, 35(5), 1311-1320.
- Attwood, A., Frith, U., & Hermelin, B. (1988) The understandings and use of interpersonal gestures by autistic and Down's Syndrome children. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 18(2), 241-257.
- 東敦子・野辺地正之 (1992) 幼児の社会的問題解決能力に関する発達の研究一けんか及び援助状況の解決と社会的コンピテンス. *教育心理学研究*, 40, 64-72.
- Baron-Cohen, S. (1989) The autistic child's theory of mind: specific developmental delay. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, 30, 285-297.
- Baron-Cohen, S., Leslie, A. M., & Frith, U. (1985) Does the autistic child have a "theory of mind"? *Cognition*, 21, 37-46.
- Baron-Cohen, S., Baldwin, D. A., & Crowson, M. (1997) Do children with autism use the speaker's direction of gaze strategy to crack the code of language? *Child Development*, 68, 48-57.
- 別府哲・野村香代 (2005) 高機能自閉症児は健常児と異なる「心の理論」をもつか: 「誤った信念」課題とその言語的理由付けにおける健常児との比較. *発達心理学研究*, 16 (3), 257-264.
- Bowler, D. M. (1992) "Theory of mind" in Asperger's syndrome. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, 33, 877-893.
- Bowler, D. M., Gardiner, J. M., & Grice, S. J. (2000) Episodic memory and remembering in adults with Asperger Syndrome. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 30(4), 295-304.
- Chin, H. Y. & Bernard-Opitz, V. (2000) Teaching conversational skills to children with autism: effect on the development of a theory of mind. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 30(6), 569-583.
- Dodge, K. A. (1980) Social Cognition and Children's Aggressive Behavior. *Child Development*, 51, 162-170.
- Dodge, K.A. (1986) A social information processing model of social competence in children. In M. Perlmutter (Ed.), *ZheminnesOta symposia on child psychogogbl*, 18, Hillsdale, NJ: LEA. 77-125.
- Dodge, K. A., & Somberg, D. R. (1987) Hostile Attributional Biases among Aggressive Boys Are Exacerbated under Conditions of Treats to the Self. *Child Development*, 58, 213-224.
- 遠藤利彦 (1997) 乳幼児期における自己と他者、そして心. *心理学評論*, 40 (1), 57-77.
- Frith, U. (1989) *Autism Explaining the Enigma*. Blackwell Publishing. 富田真紀・清水康夫・鈴木玲子訳 (1991) 自閉症の謎を解き明かす. 東京書籍.
- Frith, U., Happé, F., & Siddons, F. (1994) Autism and theory of mind in everyday life. *Social Development*, 2, 108-124.
- Frith, U. (2004) Confusions and controversies about Asperger syndrome. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, 45, 672-686.
- Frith, U., & Vignemont, F. (2005) Egocentrism, allocentrism, and Asperger syndrome. *Consciousness and Cognition*, 14, 719-738.
- 藤野 博 (2002) 著、小池敏英 監修 アニメーション版心の理論課題. DIK 出版.
- 藤野 博 (2005) 著、小池敏英 監修 アニメーション版心の理論課題 ver. 2. DIK 出版.
- 藤野 博 (2013) 学齢期の高機能自閉症スペクトラム障害児に対する社会性の支援に関する研究動向, *特殊教育学研究*, 51 (1), 63-72.
- 二川敬子・高山佳子 (2008) ことばの定義からみた「約束」概念の発達. *学校教育学研究論集* 18, 121-134.
- 二川敬子・高山佳子 (2012) 障害児の社会的相互交渉一葛藤場面における対人交渉方略からの検討一, *日本発達心理学会第23回大会発表論集*, 279.
- 二川敬子・高山佳子 (2013) 発達障害児の対人交渉方略一心の理論との関連から一, *横浜国立大学大学院教育学研究科教育相談・支援総合センター研究論集*, 13, 47-56.
- Happé, F. G. E. (1994a) An advanced test of theory of mind: Understanding of story characters' thoughts and feelings by able autistic, mentally handicapped, and normal children and adults. *Journal of Autistic and Developmental Disorders*, 24, 129-154.

- Happé, F. G. E. (1994b) Autism in introduction to psychological theory. UCL press. 石坂好樹・神尾陽子・田中浩一郎・幸田有史訳 (1997) 自閉症の心の世界－認知心理学からのアプローチ－. 星和書店.
- Happé, F. G. E. (1995) The role of age and verbal ability in the theory of mind task performance of subjects with autism. *Child Development*, 66, 843-855.
- Happé, F. G. E. (2003) Theory of Mind and the Self. *Annals of the New York Academy of Sciences*, 1001, 134-144.
- Holroyd, S., & Baron-Cohen, S. (1993) How far can people with autism go in developing a theory of mind? *Journal of Autism and Development Disorders*, 23, 379-385.
- Hurlburt, R. H., Happé, F., & Frith, U. (1994) Sampling the form of inner experience in three adults with Asperger syndrome. *Psychological Medicine*, 24, 385-395.
- 池上貴美子・栗田裕美 (2000) 幼児の約束概念の理解に及ぼす要求要因の影響. 金沢大学教育学部紀要・教育科学編, 49, 9-14.
- 乾 敏郎 (2013) 脳科学からみる子どもの心の育ち－認知発達のリーツをさぐる. ミネルヴァ書房.
- 伊藤恵子・西村章次 (1999) 自閉性障害を伴う子どもの相互作用成立要因に関する分析的研究. 発達障害研究, 20, 316-330.
- 井澤信三 (2003) 自閉症児における問題状況を解決するための社会的技能の獲得と般化－生態学的調査に基づいた「ルール制御」による指導とその効果－, 発達心理臨床研究, 9, 1-7.
- 上里真喜子・嘉数朝子 (1995) 幼児の「約束」の理解の発達. 琉球大学教育学部教育実践研究指導センター紀要, 3, 71-77.
- Keane, S. R., & Parrish, A. E. (1992) The role of affective information in the determination of intent. *Developmental Psychology*, 28, 159-162.
- 金 彦志・西永 堅・細川 徹 (2004) 通常学級における健常児と軽度障害児との相互作用に関する研究 (1)－ポケットPCを用いた観察方法－, 東北大学大学院教育学研究科研究年報, 53 (1), 357-370.
- 小林敬一 (1994) 約束と予定の記憶－展望的記憶. 教育と医学, 42, 1028-1034.
- 小島道生 (2005) 発達障害者の葛藤場面における対人交渉方略に関する研究. 長崎大学教育学部紀要 (教育科学), 69, 43-49.
- 子安増生 (1997) 子どもが心を理解するとき. 金子書房.
- 子安増生・服部敬子・郷式徹 (2000) 「心の理論」獲得前後の他者の心の理解過程－事例分析による検討. 京都大学大学院教育学研究科紀要, 46, 1-25.
- 子安増生・鈴木亜由美 (2002) 幼児の社会的問題解決能力と「心の理論」の発達. 京都大学大学院教育学研究科紀要, 48, 63-83.
- Lee, A., & Hobson, R. P. (1988) On Developing Self-concepts: A Controlled Study of Children and Adolescents with Autism. *Journal of Child Psychology Psychiatry*, 39(8), 1131-1144.
- Mant, C. M., & Perner, J. (1988) The Child's Understanding of Commitment. *Developmental Psychology*, 24, 343-351.
- Lord, C., & Magill, J. (1994) 野村東助訳 自閉症における友達関係研究の方法論的・理論的問題. Dawson, G. (Ed.): (野村東助・清水康夫監訳) : 自閉症－その本態、診断および治療. 日本文化科学社. 295-312.
- Millward, C., Powell, S., Messer, D., & Jordan, R. (2000) Recall for and Other in autism: children's memory for events experience by themselves and their peers. *Journal of Autism and Development Disorders*, 30(1), 15-28.
- 中澤 潤 (2000) 第3章 社会的問題解決からの社会性の発達. 塩見邦雄 編者, 社会性の心理学, ナカニシヤ出版. 43-62.
- 中嶋理香 (2008) 自閉症幼児における他者の意図理解の発達. コミュニケーション障害学, 25, 99-108.
- 長峰伸治・加藤麻登佳・辻井正次 (2011) 定型発達児・者との比較による高機能自閉症児・者の対人交渉方略の検討. 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 19, 27-40.
- 内藤美加 (2013) 自閉症児の「心の理論」－マインド・ブラインドネス仮説とその後の展開. 発達, 135号, 60-65. ミネルヴァ書房.
- 西村章次・狗巻修司 (2010) 異なった遊びに見られる1自閉症幼児と養育者(母親)の相互交渉の特徴－絵本の読み聞かせ、パズル、シャボン玉遊びの比較から－, 白梅学園大学・短期大学紀要, 46, 1-14.
- 野村香代・別府 哲 (2005) 高機能自閉症児における自

- 己概念の発達, 日本特殊教育学会第43回大会発表論文集, 406.
- 小川一夫 (1987) 監修 改訂新版社会心理学用語辞典, 北大路書房.
- 岡田 智・後藤大士・上野一彦 (2005) アスペルガー症候群へのソーシャルスキル指導 —社会的認知の向上とスキルの定着化をめざして—. LD研究, 14, 153-162.
- Olson, D. R., & Astington, J. W. (1986) Children's acquisition of metalinguistic verbs. In W. Demopoulos & A. Marras (Eds.) *Language Learning and Concept Acquisition: Foundational Issues*. Norwood, N.J.: Ablex
- Ozonoff, S. & Miller, J. N. (1995) Teaching theory of mind: A new approach to social skills training for individuals with autism. *Journal of Autism and Developmental Disabilities*, 25, 415-433.
- Ozonoff, S., Rogers, S. J., & Pennington, B. F. (1991) Asperger's syndrome: evidence of an empirical distinction from high-functioning autism. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, 32, 1107-1122.
- Perner, J., Frith, U., Leslie, A. M., & Leekam, S. R. (1989) Exploration of autistic child's theory of mind: knowledge, belief, and communication. *Child Development*, 60, 689-700.
- Perner, J., & H. Wimmer. (1985) "John thinks that Mary thinks that ..." Attribution of second-order beliefs by 5-10 year old Children. *Journal of Experimental Child Psychology*, 39, 437-471.
- Premack, D., & Woodruff, G. (1978) Does the chimpanzee have a theory of mind? *The Behavioral and Brain Sciences*, 1, 515-526.
- Quiggle, N. L., Garber, J., Panak, W. F., & Dodge, K. A. (1992) Social information processing in aggressive and depressed children. *Child Development*, 63, 1305-1320.
- Searle, J. R. (1969) *Speech Acts: An Essay in the Philosophy of Language*. 坂本百大・土屋俊翻訳「言語行為」—言語哲学への試論—, 勁草書房.
- 千住 淳 (2013) 社会脳の発達. 東京大学出版.
- Solish, A., Minnes, P., & Kupferschmidt, A. (2003) Integration of children with developmental disabilities in social activities. *Journal of Developmental Disabilities*, 10(1), 115-121.
- Sparrevohn, R., & Howie, P. M. (1995) Theory of Mind in Children with Autistic Disorder: Evidence of Developmental Progression and the Role of Verbal Ability. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, 36(2), 249-263.
- 鈴木敦子 (1993) 幼児における約束概念の理解. 教育心理学研究, 41, 143-151.
- 鈴木 徹・平野幹雄・北 洋輔・郷右近 歩・野口和人・細川 徹 (2013) 高機能自閉幼児における対人交渉の困難の要因に関する検討 —心の理論課題を通過する事例の様相に着目して—. 特殊教育学研究, 51 (2), 105-113.
- Swettenham, J. (1996) Can children with autism be taught to understand false belief using computers? *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, 37(2), 157-165.
- 滝吉美知香・田中真理 (2008) ある自閉症児における他者意図の推測と「心の理論」, 東北大学大学院教育学研究科研究年報, 56 (2), 245-266.
- 滝吉美知香・田中真理 (2009) あるアスペルガー障害者における自己理解の変容過程 —心理劇的ロールプレイングを通して—. 心理臨床学研究, 27 (2), 195-207.
- 滝吉美知香・李熙馥・斎藤維斗・横田晋務・田中真理 (2010) ある発達障害児における他者の心的状態の理解に関する検討 —「心の理論」における誤信念課題と実際の対人関係場面との比較から—. 教育ネットワークセンター年報, 10, 75-84.
- 高橋和子 (2004) 高機能自閉児に対するコミュニケーション・ソーシャルスキル支援, 発達障害研究, 32 (2), 157-166.
- 高橋和子 (2005) 高機能広汎性発達障害児集団でのコミュニケーション・ソーシャルスキル支援の試み —語用論的視点からのアプローチ—. 教育心理学年報, 44, 147-155.
- 田辺夫美・津田芳見・橋本俊顕 (2010) 小学校高学年の高機能広汎性発達障害と定型発達児の自己概念に関する比較研究: 共感性, 心の理論との関連. 小児の精神と神経, 50 (2), 175-187.
- 十一元三・神尾敦子 (2001) 自閉症者の自己意識に関する研究. 児童青年精神医学とその近接領域, 42 (1), 1-9.

Volkmar, F., Sparrow, S., Goudereau, D., Cicchetti, D., Paul, R., & Cohen, D. J. (1987) Social deficits in autism: An operational approach using the Vineland Adaptive Behavior Scale. *Journal of the American Academy of Child Psychiatry*, 26, 156-161.

Yeates, K. O. & Selman, R. L. (1989) Social competence in the schools: Toward an integrative developmental model for intervention. *Developmental Review*, 9, 64-100.

Social interaction in children with autism spectrum disorder:

Relations with understanding of mental state

Keiko FUTAGAWA*, Yoshiko TAKAYAMA**

The present article surveyed a preceding study to examine the social interaction of children with autism spectrum disorder from the viewpoint of understanding their mental state and to consider the direction of the support for them. About the social interaction of children with autism spectrum disorder, it is shown that it is difficult to make friends and to develop friendship from the observation of their daily lives. On the other hand, it is said that our social interaction is communication with each other through our mental state, and it is necessary in social interaction to understand the mental state of others and oneself. The understanding of the mental state of others was studied as “theory of mind” conventionally. As a result, it has been pointed out that it was difficult for children with autism spectrum disorder to build up a “theory of mind” similar to normal children. It is shown that the understanding of intention of others greatly influences social problem solving strategy choices. But it is supposed that children with autism spectrum disorder have difficulty in understanding intention of others. There is a close connection between understanding mental state of others and understanding one’s own mental state, therefore, there is difficulty for children with autism spectrum disorder to understand mental state. We adjust both

the mental state of others and our own mental state for social interaction as appropriate to each situation. It is thought that it’s difficult for children with autism spectrum disorder to interact with others smoothly, because they have difficulty understanding the mental state of others and themselves. In addition, there is little demonstrative research about the relationship between understanding the mental state and real social interaction in children with autism spectrum disorder. So, we should examine the relationship between understanding mental state and real social interaction in children with autism spectrum disorder and consider the support of their social interaction in the future.

Key words

social interaction, children with autism spectrum disorder, understanding of mental state

*The United Graduate School of Education, Tokyo Gakugei University

**College of Education and Human Sciences, Yokohama National University

自閉症スペクトラム障害児の 社会的相互交渉に関する研究動向

—— 心的状態の理解との関連から ——

二川 敬子*・高山 佳子**

本稿は、心的状態の理解という観点から自閉症スペクトラム障害（autism spectrum disorder: ASD）児の社会的相互交渉について検討するため、先行研究を概観し支援の方向性について考察したものである。ASD児の社会的相互交渉については、行動観察による研究から仲間関係を作り維持することが困難であることが示されている。一方、私たちの社会的相互交渉は心的状態のやりとりであり、社会的相互交渉には他者及び自己の心的状態の理解が必要である。他者の心的状態の理解は、従来「心の理論」として研究されてきた。その結果、ASD児は健常児と同じような心の理論を獲得することが困難だということが指摘されてきた。また、問題解決方略の選択には他者の意図理解が大きく影響していることが示されている。しかし、ASD児は他者の意図理解が困難であることが推測される。他者の心的状態を理解することと自己の心的状態を理解することは密接に関係があり、ASD児は自己の心的状態の理解にも困難があると考えられる。私たちはそれぞれの状況に適した社会的相互交

渉のために、他者の心的状態の理解と自己の心的状態の理解の両方を適切に調整している。ASD児は他者および自己の心的状態を理解することが困難であるため、彼らにとって他者と円滑に相互交渉することは困難であると考えられる。加えてASD児の心的状態の理解と実際の行動を検討した実証的な研究はほとんど行われていない。彼らの心的状態の理解と実際の行動の関連を明らかにし、社会的相互交渉の支援を考えることが今後の課題であると考えられる。

Key words

社会的相互交渉, 自閉症スペクトラム障害児, 心的状態の理解

*東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科

**横浜国立大学 教育人間科学部